

木耐協 マンスリーレポート

2025.11
vol.
323



1. 木籠橋からみる水没家屋。洪水等で流出しないよう柵・ネットが設置されている
2. 家の中に土砂が入っていることが分かる
3. 集団移転をした集落の隣接地にある直売所・資料館の「郷見（さとみ）庵」
- 4, 5. 「郷見庵」では、野菜・お土産などを販売

特集

ぼうさいこくたい2025 in 新潟

誌上レポート

特集

リフォーム産業フェア2025

誌上レポート

今号の表紙

新潟県・旧山古志村にある震災遺構「木籠（こごめ）集落水没家屋」。2004年中越地震で河道閉塞が起こり、集落が水没。住民は集団移転を余儀なくされました。その後、地すべり土砂が下流へ流れないように砂防堰堤（えんてい）を整備したことで、この場所は土砂がたまる場所（堆砂敷）になりました。保存された家屋2棟は住民が維持管理し、近くの直売所と資料館の「郷見庵」も地域で運営されています。「ぼうさいこくたい」前日、「防災関連施設見学バスツアー」でこの地を訪れました。

写真：事務局スタッフ撮影
URL：中越メモリアル回廊「木籠メモリアルパーク」
https://www.cosss.jp/memorial_park/kogomo.html



日本木造住宅耐震補強事業者協同組合



▼木耐協は、「ぼうさいこくたい2025 in 新潟」の2日目にセッションを開催しました。開会挨拶を小野理事長、基調講演を平田名誉教授、関事務局長と長柴氏による講演後にパネルディスカッションと盛りだくさんの90分間のプログラム。参加者から質問もいただき、事前防災・住宅耐震化を伝える熱いセッションとなりました。

木耐協は「セッション」で参加しました!

『地震を知って震災に備える／住宅耐震化を進めて在宅避難』

講演1



ただモノを揃えるだけではNG!
『備え方』本当の真実

一般社団法人
防災備蓄収納プランナー協会 代表理事
長柴美恵 氏

▶「飲む・食べる・出す・休む」という生活に必要な備蓄を最低7日分用意するだけでなく、災害時に凶器となる危険な収納の例を挙げ、「**固定や落下防止の工夫をしながら少しずつ対策**しましょう」と呼びかけられました。

講演2



自宅は安全な場所ですか?
耐震性確認のポイント

木耐協 事務局長
関 励介

▶木造住宅の主な4つの倒壊原因と、**旧耐震・81-00の住宅のリスク**について解説しました。耐震補強の方法として壁や接合部の強化・屋根の軽量化などがあること、費用の目安や補助金の活用方法のポイントを紹介しました。

視聴された方のご紹介!

被害を出したくないという皆さまの思いが、とても伝わってきました。受け継いで自分なりに考えていきたいと思います。

どの講師の話も、コンパクトに凝縮され内容で聞きやすかった。また、木耐協理事長の挨拶にも心を打たれました。

アーカイブ動画で視聴できて感謝しています。新潟まで行くことが出来ず講演などの視聴を諦めておりました。

ぜひ
アーカイブ動画を
視聴してください!



当日のアーカイブ動画は、左のQRコードよりご視聴いただけます。当日の資料も以下からご確認ください。

<https://www.mokutaikyo.com/bousai2025>

開会挨拶



木耐協 理事長 小野秀男

▶家が倒壊しなければ、人はほぼ死なない。これまでの地震でも繰り返された犠牲を防ぐため、地域工務店・設計事務所と共に住宅の耐震化を進めていく、とまとめました。

基調講演



地震を知って
震災に備える

一般社団法人 防災教育普及協会 会長／
東京大学名誉教授
平田 直 氏

▶2024年能登半島地震では、耐震化率が低い地域で家屋倒壊による死者が多くなり、さらに「**災害関連死**」が直接死の2倍以上となっている。それは住宅の倒壊や、ライフラインの断絶などで家に住めなくなったためであると説明。さらに南海トラフ巨大地震への備えとして、国の臨時情報制度や事前避難の意味を解説いただきました。命を守るには「住宅の耐震化」と「津波からの早期避難」が不可欠であり、**安全な自宅を確保することが最も重要**であると強調されました。

特集1

ぼうさいこくたい2025 in 新潟

誌上レポート



▼日本最大級の防災イベント「ぼうさいこくたい」が新潟・朱鷺メッセで開催されました。新潟は、1964年新潟地震・2004年中越地震・2007年新潟県中越沖地震等の災害を経験しています。その経験や教訓を次世代に伝え、将来の災害に備えるために今回は新潟が会場に選ばれました。本特集では、約1万9千人の来場で盛り上がった「ぼうさいこくたい」の2日目に開催した木耐協セッションの様子を報告します。

文・関励介・渥美寿子

開催概要

第10回防災推進国民大会
ぼうさいこくたい2025 in 新潟

日 時……2025年9月6日(土)・7日(日)
会 場……朱鷺メッセ
新潟コンベンションセンター
(新潟県新潟市中央区)
主 催……防災推進国民大会2025実行委員会
(内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議)
協 力……新潟県・新潟市

▶新潟のスター、小林幸子氏も登壇し、中越地震の際に被災地応援でも歌った雪橇を披露されました



約470の
団体・機関が出展し
場内活況!



▲約180のブースが並び展示ホールは、両日にわたり多くの人でにぎわっていました



▶木耐協全国大会やセミナーでご講演いただいた、跡見学園女子大学の鍵屋一教授と現地でご挨拶。鍵屋先生は防災ジャパンでも活躍されています



▶52のプログラムが組まれたセッション(シンポジウム)も、各会場とも多くの方が参加され、立ち見が出る会場もありました



▲開会式は内閣府特命担当大臣(防災の)坂井学氏の挨拶から始まり、花角新潟県知事や中原新潟市長も挨拶されました

2026年は、10月17日(土)・18日(日)鳥取県倉吉市で開催決定!

講演紹介 1

▶ 気候変動による水害

一社) 防災教育普及協会 常務理事 澤野次郎 氏

<講演のポイント>

気候変動による
極端現象の常態化が起きている。

「千年に一度級」の降雨を前提として、
「流域治水」への政策大転換が行われている。

気象庁の「キキル」などの情報で
行政の判断を待たずに
住民が主体的に避難する時代。
豪雨発生・夜間は2階以上・頑丈な建物へ
垂直避難をする。



■ 情報化時代での対策の変化

- 【従前】
 - 行政が防災気象情報を出し、行政の避難情報で避難をする方式だけだった。
- 【最近】
 - 気象庁の防災気象情報等の状況情報にもとづき、住民が危険を判断し、自主的に避難することも奨励されている。

講演紹介 2

▶ 親が元気なうちに話しておくべき「お金と家のこと」

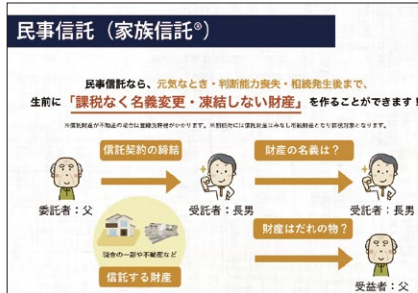
株式会社 デザインライフ 代表取締役 杉村洋介 氏

<講演のポイント>

未婚者や子供がない世帯、離婚再婚による
複雑な親族構成が相続問題を複雑化させている。

相続財産の約50%が不動産であり、
分割が難しいことも相続時に揉める原因。

相続手続きをスムーズにする遺言書、
財産の凍結を防ぐ民事信託、
節税効果があり受取人を指定できる
生命保険を活用した対策事例を紹介。



受講者アンケート結果

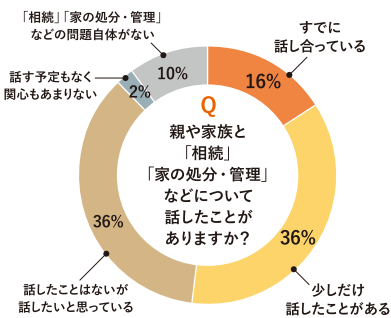
▶ 「相続」「家の処分・管理」の話、 親・家族と52%が話したことがある

「相続」「家の処分・管理」について親・家族と「すでに話し合っている」は16%、「少しだけ話したことがある」36%と回答。合わせると52%は、話しているということが分かりました。また、「話したことがないが、話したいと思っている」36%も入れると85%。聴講者の半数以上が60～70代ということもあり、相続への関心が高いことが分かりました。

<様々な感想をいただきました>

大雨による災害は本当に身近なものとなりました。
ハザードマップでは予測できないことをこの度の大雨で知りました。

相続問題を具体的に解説してくださりわかりやすかった。生前にしておけると分かったので家族で検討しようと思う。



今年最後のセミナーを10月18日(土)に開催!

来年も年4回で開催する予定ですのでどうぞ期待!

Seminar

木耐協セミナー
開催報告

Vol.03

▼ テーマは『気候変動による水害 & お金と家と相続のこと』
のべ170人にご参加いただきました!

2025年 第3回 消費者向けオンラインセミナー

木耐協主催で年4回開催する
無料の消費者向けオンラインセ
ミナー。第3回を9月13日(土)
に開催しました。講演の様子と、
受講者のアンケートを一部紹介し
ます。

事務局長が行ってきました!

不定期連載
No.20

これまであまりお伝えしていなかった木耐協事務局の活動裏話をお届けします

▶ 首都防災ウィークに登壇しました

8月24日(日)に東京都墨田区の東京都慰霊堂で開催された「首都防災ウィーク」のフォーラムで、木造住宅の耐震化について講演をいたしました。本イベントの実行委員会副代表を務める、跡見学園女子大学の鍵屋教授からお声がけいただき初参加。葛飾区都市整備部の吉田部長、達人塾ネットの川端代表と共に、「劇的に耐震化を進めるには」をテーマに議論しました。



▲厳かな慰霊堂内でのフォーラム



▲東京都慰霊堂

▶ 防災備蓄収納自慢グランプリの 審査員を務めました

セミナーやぼうさいこくたいでお世話になっている、(一社)防災備蓄収納プランナー協会が9月23日(火・祝)に開催した「防災備蓄収納自慢グランプリ(BJ-1)」に、審査員として参加いたしました。昨年に続き2回目の参加。5名のファイナリストによる備蓄に関するプレゼンを聞き、逆に勉強させていただく機会となりました。



▲自宅の防災備蓄をスライド1枚で説明されていました

▶ 中野区防災フォーラムで講演しました

9月28日(日)に中野区役所1階スペースで開催された防災フォーラムにおいて、セミナースペースのナカノバで耐震診断と補強をテーマに60分間の講演を行いました。区役所1階がオープンスペースとなり、隣のソトニワでは起震車や建て方&上棟式、ジャッキアップ救助体験等も行われていました。家族連れが防災・耐震に触れる場となりました。



木耐協事務局長
関 励介

2002年から木耐協で組合運営・
対外折衝・セミナー等を実施。
小鳥の水浴び動画で癒され、廃道・
廃墟巡り動画で和んでいます。

今後も様々な動きをお知らせしますので、ご期待ください!

これからの
工務店は
営業しない！

相続相談から始まる 新たな受注戦略

第3回

解体か、再活用か、売却か

“実家の相続”が生む3つの建築ニーズ

親の死亡後、相続人に突きつけられるのが「**実家をどうするか？**」という問題です。すでに空き家のケースもあれば、介護施設への入所中に亡くなり、使われないまま放置されているケースもあります。

このような場合、判断の選択肢は大きく分けて3つ。解体、再活用、売却です。

まず1つ目は解体。老朽化が進み、住むには危険だったり、再活用にコストがかかりすぎる場合、建物を解体して更地にするという選択です。

更地にすれば、駐車場や資材置き場として一時的に貸し出すことも可能ですし、売却がしやすくなる場合もあります。一方で、雑草や虫の発生で近所から苦情が出ることもあるため、定期的な草刈り

や管理の手間が発生する点は注意が必要です。

2つ目は再活用。リフォームを施して賃貸住宅にしたり、相続人の誰かが住む前提で耐震やバリアフリー改修を行うパターンです。

また、築年数や構造によっては、建替えて戸建賃貸や二世帯住宅にする選択肢も出てきます。

そして3つ目は売却。立地や道路条件によっては、不動産業者や住宅購入希望者への売却が現実的な解決策となります。古屋付きで売るのが、解体後に売るのが、税金の違いも含めた判断が必要です。

いずれの選択肢も、法的な手続きや家族間の合意形成、費用の試算、残置物の撤去、登記関係の整



備など、多くの課題を伴います。だからこそ、「**相談の入口**」に立っている存在が求められます。

建築業者がこの段階で関わり、必要な選択肢と対処法を示すことができれば、自然と解体工事、新築、リフォーム、調査などの受注につながっていきます。

今回は、こうした不動産トラブルの根本原因である「空き家・未登記・共有名義」について詳しく掘り下げていきます。



プロフィール

株式会社デザインライフ
代表取締役 杉村洋介

岡山県出身。26歳で保険代理店「デザインライフ」を設立後、2015年より相続コンサルタント事業を開始。年間約500件の相続相談に対応し、遺言・信託・相続税・登記・保険・不動産など幅広くサポート。現在は全国の相続専門育成にも携わる。

Tel 0120-009-422
E-mail dl-consultant@design-life.jp
Webサイト https://design-life.jp
住所 〒700-0975 岡山県岡山市北区今3-9-12

2025年
11
月号

耐震診断・補強の疑問・質問にお答えします！

鈴木
顧問の**技術通信**



鈴木芳郎 千葉県生まれ。1級建築士。
2024年に木耐協技術顧問に就任し、
研修会講師を担当。以前、執行役員を
務めていた会社で工務店経営コンサルや
商品開発支援、仮設住宅建設に尽力。

今月のテーマ

耐震補強の 落とし穴 未達の筋かいと 直交梁の注意点

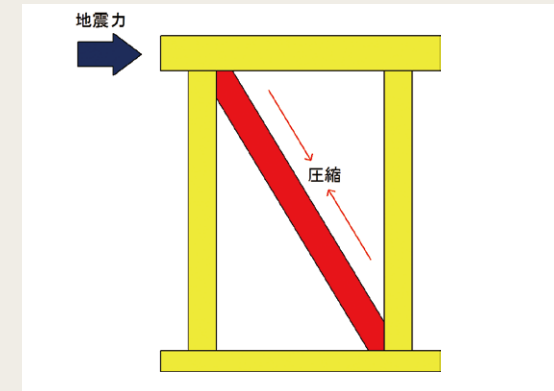
64歳からゴルフを始めましたが、80歳を超えても若者と対等にできるスポーツは他にあまりないのではと思います。どんな結果もすべて自分のショットから生まれるのであって、言い訳できないのも魅力です。技術だけでなく、メンタルを鍛えるには良いスポーツですね。

さて、今月は耐震診断・補強の現場でよくある質問を取り上げます。1つ目は、筋かいが土台や横架材まで届かず途中で止まっている場合の評価。2つ目は、直交梁が邪魔をして柱頭金物を設置できないケースです。この場合は柱と梁を一体化させることを目的に、直交梁に金物を取りつけて対応します。現場で直面しやすいこれらのポイントについて解説します。

テーマ1 端部まで届いていない筋かいの評価

参照：日本建築学会 大会学術講演梗概集（北陸）2010年9月 22243
既存木造住宅における耐力が不明確な壁要素に関する実験的研究

耐震診断では「筋かい」の評価も注意が必要です。筋かいは端部が柱と横架材に密着してはじめて、地震力による圧縮に耐え、本来の強さを発揮します（図）。



しかし、土台側だけ・横架材側だけに取りついている場合（写真）や、柱の途中にとまっている場合は耐力を期待できません。見かけ上は筋かいがあっても、耐力要素として評価してはいけない点に留意しましょう。



テーマ2 直交梁があった場合の対応

耐震補強の現場では、想定通りに金物を取りつけられないことがあります。代表例が補強壁の柱頭で、直交梁が邪魔をして柱と梁に金物を納められないケースです。（写真：左）柱頭金物の目的は【柱の抜け出し防止】。つまり、柱と梁を一体化させればよいのです。直交梁

と柱に金物を設置することで、その役割を果たすことができます。（写真：右）



技術的なご相談はこちらへ！



Mail mts@mokutaikyo.com

Tel 03-6261-2040（木耐協事務局）

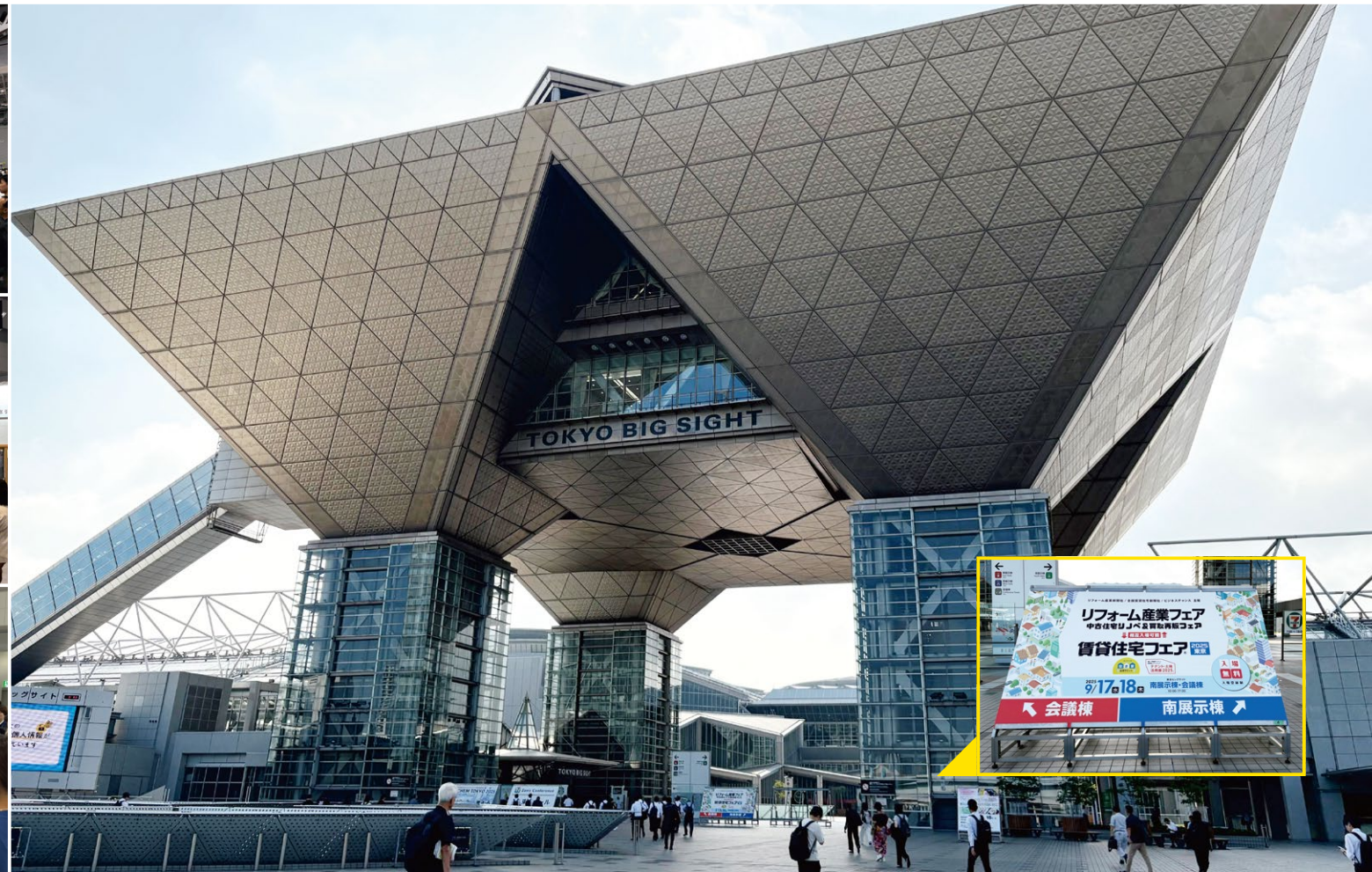
木耐協メーカー賛助会員の 皆様も多数出展されていました

組合員様向けに製品やサービスをご提供いただいているメーカー賛助会員のブース。気になるサービスがございましたら事務局にご連絡ください。



▲木耐協と連携してくださっているYKK APのブースにも多くの人が

▲断熱材の吹付実演コーナー



「特集2」 リフォーム産業フェア2025 誌上レポート

今年も「リフォーム産業フェア2025」に出展しました。初日の朝から来場者が多く、リフォーム業界の盛り上がりを実感する2日間となりました。

文：関励介

開催概要	テーマ	新時代の夜明け
	主催	リフォーム産業新聞社 (同時開催 中古住宅リノベーション買取再販フェア / 併催 賃貸住宅フェア)
	会期	2025年 9月17日(水)・18日(木) 10:00~17:00
	会場	東京ビッグサイト 南3・4ホール



来場者・出展者が参加できる「夜会」が今年も開催されました。参加者はテーブル毎に振り分けられ、初対面同士で名刺・情報交換が活発に行われました。また、途中でさらに

途中でさらに

輪を広げるゲームも開催され、お酒と軽食を交えながら様々な人と交流できるイベントでした。

今年も「夜会」が開催され約200名が交流しました



木耐協事務局長 関励介

関からは、地震が多発すること、業界構造が変化する住宅業界でリフォーム会社が耐震化に取り組む意義、今後の想定される耐震市場の規模感などをお伝えしました。参加者の耐震事業への参入意欲が高まり、木耐協加盟が増えれば幸いです。



株式会社リフォーム産業新聞社 専務取締役・報道部長 福田善紀氏

「福田氏が聞く」という内容で、「リフォーム会社は耐震に取り組むべきか」「儲かるのか」「国の支援は続くのか」「何から取り組めば良いか」「今後の耐震市場は」などの質問をされ、**新築が減少しリフォーム・リノベが増える中、耐震事業に取り組む必要がある**とまとめられていました。



国土交通省住宅局建築指導課 建築物事故調査・防災対策室 昇降機等事故対策官 栗原崇宏氏

建築物の耐震改修に関する住宅施策を取りまとめている栗原様から、国が掲げている目標と現在の耐震化率の状況、さらに**現状の課題やそれをクリアするための支援策、現在行っている耐震キャンペーン等**についてお話いただきました。

今回、木耐協は主催者枠のセミナーで講演しました

福田善紀氏が聞く！住宅の耐震化はなぜ進まないのか？
主催のリフォーム産業新聞社からお声がけいただき、9月18日(木)昼に50分間のセミナーで講演しました。同社の専務取締役である福田善紀氏がコーディネータを務め、パネリストに国土交通省 住宅局建築指導課の栗原(くわはら)崇宏氏と木耐協 関事務局長が登壇しました。今年も地震や防災に関する報道が増えている事もあるか、会場はほぼ満席となり、聴講者から「**すぐに加盟して耐震化を進めたい**」という声も頂きました。



来年も7月に東京ビッグサイトで開催予定
木耐協はリフォーム産業フェアに継続的に参加していますが、出展企業はコロナ禍以降に大きく変化し、業務サポートやシステム系さらにAI活用系が増加しています。「耐震」がテーマの企業が他に出演していないため、耐震に興味をお持ちの来場者は木耐協ブースにお越しください。耐震市場はさらなる拡大が見込まれる為、多くの事業者の皆様と連携しながら「**地震「耐」国日本**」を創るために活動が続けてまいります。

木耐協 イベント 広場

組合員交流会

(新潟：ガレソンホール)

2025年9月5日(金)

初めて参加しましたが組合員の皆様との交流は勿論、耐震の最新情報や小野理事長の講話は、経営についての非常に大事な気づきを得られ、石原様の話も参考になりました。

株式会社大建設(新潟)
高橋秀彰様



大手家電量販店他、競合がレベルアップしてくる状況の中、何をベースに事業を進めたら良いかについて、大きなヒントとなりました。

株式会社山六木材(新潟)
小林 誠様



大変有意義な時間でした。事務局からの情報提供、理事長の話に加え、石原様の講演を拝聴し、多くの学びと気づきを得ました。懇親会は皆様と活発な意見交換ができました。

株式会社ダンドリワーク(滋賀)
佐藤千尋様



リフォーム産業フェア

(東京：東京ビックサイト)

2025年9月17日(水)・18日(木)



最新の部材やDXサービスを直接体験できるのが大きな魅力で、業務にも役立っています。また、日頃なかなか会えない事務局の皆さんと直接お話できるのも楽しみにしています。

株式会社創研(山形)
渡邊旬哉様



毎回来訪しています!いつもいつもスタッフさんが遠くからでも見つけて頂き笑顔で温かく出迎えてくれます。そして配布している最新のパンフレットを頂いております。

株式会社ジョン石橋ビルダーズ(東京)
石橋直治様



沢山の組合員様ともお会いでき、有意義な2日間でした。業界の課題に①職人不足、②採用問題、③集客(AIO対策)の難易度が上がっています。変化対応力が求められますね。

リニュアル仲介株式会社(東京)
犬木 裕様



イベントスケジュール	開催日		時間	イベント名	会場	エリア
	11月	7(金)	14:30~19:00	組合員交流会in福岡	エიმアテイン博多駅前貸会議室	福岡
		13(木)	13:00~17:00	現地調査実践研修会	木耐協埼玉研修所	埼玉
		18(火)	14:30~19:00	組合員交流会in大阪	新大阪丸ビル別館	大阪
		19(水)	終日	木耐協ゴルフコンペ西日本	PGM池田カントリークラブ	大阪
		26(水)	14:00~17:00	技術向上委員会	木耐協半蔵門事務所	東京
	12月	3(水)	15:00~16:00	倫理向上委員会	木耐協半蔵門事務所	東京
		5(金)	14:00~17:00	理事会	未定	東京
	12.27(土)~2026.1.4(日)事務局冬期休業					
	2026年1月	8(木)	13:30~17:00	全国大会 第28回大会	アキバプラザ アキバホール	東京
			17:20~19:00	全国大会 賀詞交歓会	アキバプラザ レセプションホール	東京

※諸般の事情によりイベントが中止・変更になる場合がございますので予めご了承ください。
※各イベントの概要や詳細についてはお気軽に木耐協事務局へお問い合わせください

Book Review

『なぜ日本人は間違えたのか』
今号の理事長オススメはこの一冊!

真説・昭和100年と戦後80年



まずタイトルで「日本人は間違えた!」と過去形で言い切っているところに共感し、読んでみました。著者の20年前のベストセラー「あの戦争は何だったのか」を読んできて、とても分かり易い著書を何冊か読んでいますが、正に昭和の論客として尊敬しています。本書も昭和のエポックメイキングな出来事や人物を、個別に取り上げた明解な構成で、すんなりと読めます。

第1章「昭和100年」とは何だったのか

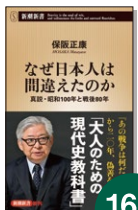
第2章「あの戦争」とは何だったのか
第3章「二・二六事件」とは何だったのか

第4章「東京裁判」とは何だったのか
第5章「高度成長」とは何だったのか
第6章「田中角栄」とは何だったのか
第7章「昭和天皇」とは何だったのか
第8章「戦後80年」とは何なのか

この本は、それぞれの時代や出来事

を俯瞰できる、正に「大人のための現代教科書」と言えます。私のような昭和のど真ん中世代にとっては、いつも昭和が気になります。しかし、「降る雪や明治は遠くにありにけり」と俳人中村草田男がうたったのは昭和6年、明治が終わってから約20年経った頃でした。そう考えれば昭和が終わって既に37年、もうとくに遥か彼方になり、あと何年かすれば「平成」も遠くになつてしまふのでしょうか。
15歳の時、中学校の卒業式で校長先生が言った言葉「温故知新」を思い出しますが、「古きを尋ね新しきを知る」とは、新しいものを知る為には過去のことも知っておこう!と説いているのだと思います。それでも、何でも昔に拘るのは、老人のしるしでもありません。正に私達は「歴史は繰り返す」の格言の中に今、生きているのだと実感しています。

歴史になりつつある昭和を
昭和史の第一人者が説く!



160
冊目

なぜ日本人は
間違えたのか
真説・昭和100年と
戦後80年

著者／保阪正康
発行／新潮新書
価格／900円(税別)



事務局通信

● 編集後記 ●

DIYをテーマにした展覧会(東京都美術館)を見に行きました。「DIY」は、第二次大戦後のイギリスで元軍人たちが「何でも自分でやろう」を合い言葉に、街の再建に取り組んだのが始まりだそうです。様々な展示の中で、東日本大震災で被災した陸前高田の人々との対話をきっかけに描かれた『二重のまち』という作品が特に印象に残りました。(渥美)

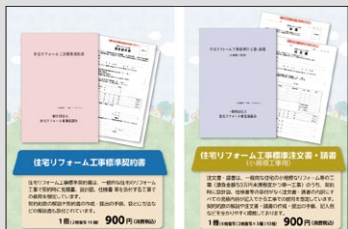


✂ 「リフォーム標準契約書」等が改訂されました

住宅リフォーム推進協議会の「住宅リフォーム工事標準契約書」等がこの度改訂し、令和6年施行改正建設業法に対応しました。また、頭書さにはリフォーム瑕疵保険加入確認の一文が追加。PDFデータは無料ダウンロードでき、複写タイプは購入できます。ぜひ活用しましょう。

「住宅リフォーム標準契約書式集」等

<https://www.jreform.com/publish/shosiki.html>



✂ 第28回全国大会を来年1月に開催します

全国大会を2026年1月に開催します。組合で最も規模の大きいイベントで、来年は熊本地震から10年の節目となります。全国の組合員の皆様にお集まりいただきたく、まずはスケジュールを抑えていただきますようお願い申し上げます。

日時：2026年1月8日(木) 13:30~(終了後、賀詞交歓会)

会場：アキバプラザ(東京都千代田区神田練堀町3富士ソフトアキバプラザ)

〔大会〕アキバホール 〔賀詞交歓会〕レセプションホール ※時間等は変更になる場合がございます。



発行 ● 国土交通大臣認可法人 日本木造住宅耐震補強事業者協同組合

発行人 ● 小野秀男 編集 ● 関 励介、伊藤健三、渥美寿子

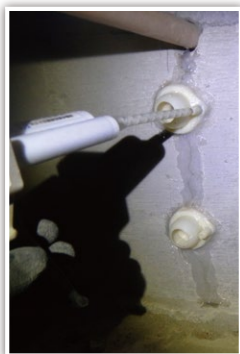
所 在 ● 東京都千代田区麹町2-2-31 麹町サンライズビル4階 tel 03-6261-2040 fax 03-6261-2041

組合員さん こんにちは！ 事務局員がおじゃまします

▶事務所外観

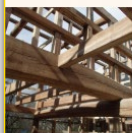


▶ホームページにも
耐震診断・
補強工事をPR



▲エポキシ樹脂で
基礎を補修

耐震診断 補強工事



日本は、世界一の地震大国であり活断層が2000以上あると言われています。平成7年に起きた阪神淡路大震災では、6434名、平成23年に起きた東日本大震災では、15735名の本当に大勢の尊い命が犠牲となり亡くなりました。本当に残念な悲しい事です。

そして、現在、首都圏では30年以内に、9.8%直下型の大震災が起ると予測され、そして、高知を含む西日本では、南海大震災が三十年以内に、7.0%起ると予測されています。



▶耐震ボード
「かべつよし」の
取り付け

株式会社 アットホーム四国様 高知県南国市

耐震化を地域で推進

床下調査を徹底し精度向上

高知県全域で、新築・リフォーム・不動産までワンストップで手がけるアットホーム四国様。

2016年より木耐協の理事を務め、耐震化の推進に尽力されている北村社長にお話を伺いました。国土交通省の耐震化推進プロジェクトにおいて、補強工事実施者をご紹介いただくなど、組合としても大変強い存在です。

最近では、2025年4月に施行された4号特例縮小の影響で確認申請が必要と見込まれながらも、

工事内容を事前に整理することで不要となったケースを経験。法律や補助金の内容を見極めつつ、お客様に最適な道筋を探る実務力が光ります。

地震の度に高まる関心 補助金と成約のバランス

高知県は南海トラフ地震による倒壊や津波被害が想定され、自治体や住民の耐震化への意識が高い地域です。補助金の枠が早々に埋まり、昨年4月に宿毛市で震度6弱を記録した地震の後には、さらに診断依頼が増えました。一方で補助金予算の不足や審査遅延が課題となり、「診断案件はあるが、工事が補助金待ち」という状況も生じており、経営面でのバランスの難しさを実感されています。

「安心」を届ける使命 地域と共に歩む家づくり

「耐震補強工事には床下調査が必須。正確な情報を得ることで、お客様にご満足いただける補強設

計が可能となる」と話され、自ら床下に潜って調査を行う姿勢は、現場主義そのものです。

北村社長は「地域の安全・安心を守ることが私たちの使命」と力強く語ります。宅建業の免許を取得し、不動産・新築・リフォームを一貫して対応できる体制は、お客様にとって大きな安心。地域密着で信頼を築きながら、これからも高知の住まいを支え続けます。

▶代表取締役 北村憲司



地震の影響で増える診断依頼に真摯に応え、自治体とも関係を築きながら工事につなげていく北村社長。“現場主義”と地域に根ざした耐震化推進の姿勢を強く感じました。

(事務局:伊藤)



木耐協マンスリーレポート
2025年11月号Vol.323

発行:国土交通大臣認可法人日本木造住宅耐震補強事業者協同組合
発行人:小野秀男 編集:関功介、伊藤健三、運美寿子

東京都千代田区麹町2-2-31 麹町サンライズビル4階
Tel: 03-6261-2040 Fax: 03-6261-2041